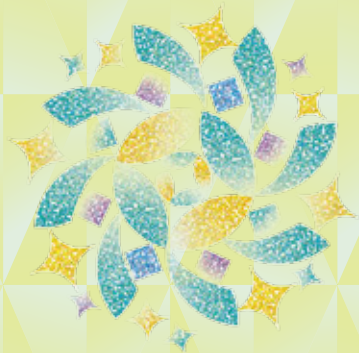




和'S YAMATO 夏号 2019

(わずやまと)



作品名「睡蓮 ヤマトビオトープ園にて」
須藤和之 画 サイズ F6号

—特集「いだてん」—

- ◎水泳日本の父・田畑政治氏
- ◎特別寄稿 群馬県のいだてんたち
- ◎郷土史跡めぐり 黒井峯遺跡
- ◎シリーズ群馬の芸術家 李志宏氏
- ◎お客様紹介 台東区立蔵前小学校 様
- ◎名瀑探訪 秩父華嚴の滝 (埼玉県皆野町)

名瀑探訪

秩父華嚴の滝

埼玉県皆野町



「秩父華嚴の滝。滝口から滝つぼに至る水流が緩やかな曲線を描き優美さが引き立っている。」

秩父華嚴の滝は、水が一直線に流れ落ちる姿が日光の華嚴の滝に似ているところから、名付けられたということです。日光は豪壮で男性的ですが、秩父は落差約12メートルと小ぶりで、つつましい優美さが感じられ、女性的です。滝つぼを近くで眺めることができ、清々しい空気に触れることができる癒しのスポットにもなっています。駐車場やバス停から徒歩10分弱とアクセスが良く、手軽に観瀑できます。



駐車場から滝までの山道は整備されている。さらに山道を登ると、不動滝、上空(かみそら)滝があり、秩父華嚴の滝と合わせて「日野沢三滝回廊」と名付けられている。



滝口の上には、コンクリート製の不動明王が鎮座している。ユーモラスな顔をしている。



「山道では滝口の上から滝の全景を見ることができる。」

天空のおやき
山道を登ると、秩父名物「天空のおやき」の店がある。
テラス席からは秩父の山並みが眼前に広がる。

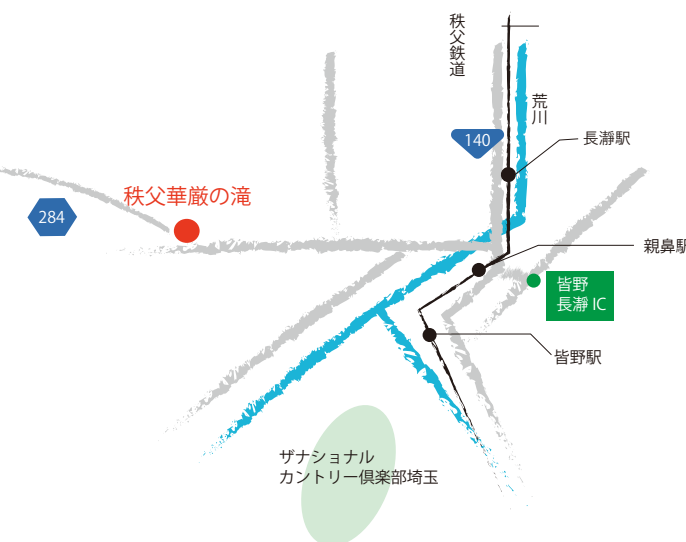
秩父華嚴の滝 ACCESS

<所在地>

秩父郡皆野町大字下日野沢

<アクセス>

電車：秩父鉄道「皆野駅」より、皆野町営バス「日野沢」行き
「秩父華嚴の滝前」下車、徒歩約5分
車：関越道花園ICから国道140号で秩父方面へ向かい、
親鼻橋で皆野市街方面へ



和'S YAMATO 夏号 (第41号) 2019

建設プロダクト ヤマト

株式会社ヤマト 群馬県前橋市古市町118 〒371-0844 TEL.027-290-1800(代) FAX.027-290-1896
支店／東京、埼玉、栃木、横浜、千葉、高崎、東北 営業所／軽井沢、伊勢崎、神奈川県央、茨城、太田、東松山、新潟、長野、渋川、川口、多摩、横須賀、滋賀
附属施設／大和環境技術研究所、大和分析センター、加工センター、朝倉工場、教育センター、コンタクトセンター、サポートセンター
ヤマトホームページ www.yamato-se.co.jp/

和'S YAMATO 2019 夏号／2019年6月発行
発行：株式会社ヤマト (広報室) 群馬県前橋市古市町118
TEL.027-290-1891 FAX.027-290-1896

『和's YAMATO』の由来 ヤマトの漢字の「和」、Water & Air の頭文字を合わせて「WA」、「S」はスタート。ヤマトが発信するメッセージです。



水泳ニッポンの父

田畑政治氏

(たばた まさじ)

(本文は敬称略)

浜松で水泳に親しむ日々を送る

田畑政治は明治三十一年（一八九八）、二月一日、静岡県浜名郡浜松町成子（なるこ）（現在の浜松市中区成子町）の造り酒屋「八百庄」の次男として生まれた。田畑家は浜松有数の資産家で、夏には浜名湖畔の弁天島という避暑地の別荘で過ごすなど、良家の子息として育った。

弁天島は中学生が水泳訓練をする場所。田畑は幼いころから訓練風景を見ていたため、中学生になると遠泳を始めた。熱心に練習して将来は水泳選手になる夢を持つが、大正三年（一九一四）の中学四年の時に慢性盲腸炎に大腸カタルを併発し、医師から激しい競泳は止められてしまう。政治は選手の道を断念し、指導者となって母校の浜松中学校を水泳日本一にしようと指導に励むのだった。



大正五年（一九一六）には浜名湖畔の学校をまとめて競泳の訓練をする「浜名湾遊泳協会」が設立された。浜名湖周辺の学校はそれぞれ独自の練習をしていたが、練習方法を統一して選手の強化を図る試みだ。田畑は発起人の一人に名を連ね、リーダーとして頭角を現していく。

水泳訓練の集合写真

明治44年（1911）、浜松中学校の生徒が参加した水泳訓練の集合写真。この時田畑は1年生だった。この訓練は8月1日に開始され、浜名湖での大遠泳も行われた。この遠泳は6時間以上かけて泳ぐという厳しいもので、田畑も下級生ながら泳ぎきり、将来は水泳選手になることを夢見ていた。



田畑家の別荘があった弁天島

明治の中頃になると、浜松の資産家は浜名湖畔の風光明媚な弁天島に別荘を持つようになり、田畑家も橋のたもとに別荘を所有した。田畑は幼少期から夏休みになるとこの別荘で過ごし、自然に泳ぎを覚えたという。



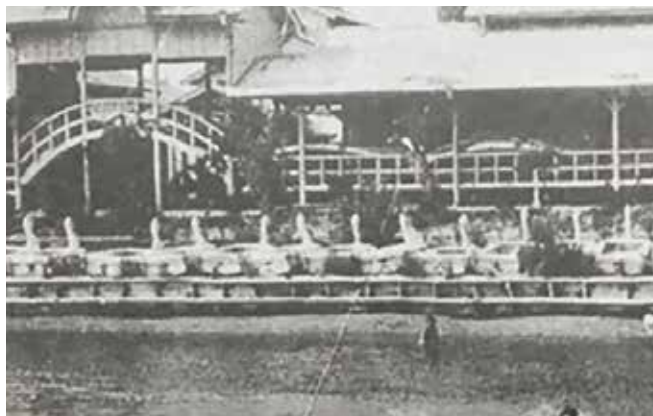
田畑政治の生家 造り酒屋「八百庄」絵図

田畑家は造り酒屋を営む浜松有数の資産家で、明治の学制改革では学校の設立に多額の寄付をし、銀行への出資、商工会議所の設立に加わるなど、地元の発展に貢献した。昭和42年（1967）に生家の広大な敷地にレストランが建てられ、現在はコンビニエンスストアになっている。

一写真4点は The GATE HAMAMATSU の展示ー

競泳全国一を目指して練習を強化

大正九年（一九二〇）、田畑は東京帝国大学に入学し、浜名湾遊泳協会の監督として競泳大会に臨むが、大阪の茨木中学校（現在の大阪府立茨木高校）に完敗する。茨木中学は「日本近代水泳発祥の地」として、五〇メートルプールなど設備が充実しており、強豪選手が多く国内無敵を誇っていた。翌年、弁天島に長さ一〇〇メートルのプールが完成、新設のプールで全国競泳大会が行われた。地元での開催のため優勝を目指したが、大差で茨木中学校に敗れた。田畑は茨木中打倒を目標に掲げ、技術面、精神面の強化を図るため、気迫のこもった指導を続けて選手の潜在能力を引き出し、翌年の大正十一年（一九二二）



弁天島 100 メートルプール（案内看板より）

日本の水泳を世界トップレベルに引き上げる

昭和三年（一九二八）に開催されたアムステルダム（オランダ）五輪では、二〇〇メートル平泳ぎの鶴田義行が日本人として初めて水泳で金メダルを獲得した。また、八〇〇メートルリレーでは銀メダル、一〇〇メートル自由形では銅メダルを獲得し、日本の水泳は世界トップレベルとなった。政治は、オリンピックの成果に安住せず、日本の水泳をさらに強化するための行動を続ける。アムステルダム五輪終了後、政治は水泳の国際大会を日本で開催することを企画し、オリンピックで五個の金メダルを獲得したアメリカのワイズミューラーなどの有力選手を招待した。日本の水泳選手が強くなるためには、レベルの高いアメリカとの対抗戦が不可欠というのが田畑の持論で、昭和六年（一九三一）には東京の神宮プールで日米水泳大会を開催し、遂にアメリカを破る快挙を成し遂げた。

昭和七年（一九三二）のロサンゼルス五輪で田畑は日本水泳チームの

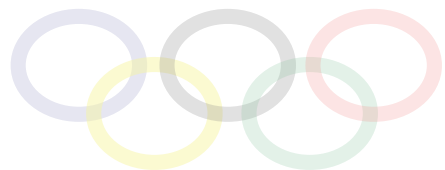
総監督となり、選手四十一名を統率した。日本の男子水泳陣は一〇〇メートル自由形、一、五〇〇メートル自由形、一〇〇メートル背泳ぎ、二〇〇メートル平泳ぎ、八〇〇メートルリレーで金メダルを獲得した。六種目中五種目で一位という成績を残し、「水泳王国日本」の実力を世界に見せつけた。一〇〇メートル自由形と八〇〇メートルリレーで金メダルをとった宮崎康二は浜松一中の四年生で一五歳の青年だった。宮崎が帰国して浜松駅に降り立った時には一万余以上の群衆が詰めかけ、その快挙を祝福した。



アムステルダム五輪会場



『金栗四三と田畑政治』 関連年表	
1891年(明治24)	8月、金栗四三、熊本県玉名郡(現・和水町)に誕生。
1898年(明治31)	12月、田畑政治、静岡県浜松町(現・浜松市)に誕生。
1911年(明治44)	田畑、浜松中学校に入学。水泳部に入部。 金栗、オリンピック国内予選会マラソンで世界記録を大幅に更新して優勝。
1912年(明治45)	金栗、三島弥彦とともに日本人としてオリンピック初出場。 第5回ストックホルム大会開催 。日本初参加。
1914年(大正3)	金栗、春野スヤと結婚。 田畑、病気のため水泳選手を断念。 第一次世界大戦勃発 。
1916年(大正5)	金栗、神奈川県師範学校(現・横浜国立大学教育学部)に地理教師として赴任する。 第6回ベルリン大会、第一次世界大戦で中止 。
1917年(大正6)	金栗、日本初の駅伝「東海道駅伝競走」開催に協力。選手としても参加。
1919年(大正8)	金栗、仲間と下関ー東京間1200キロを20日間で走破。
1920年(大正9)	金栗、仲間らと箱根駅伝を発案し初開催。 金栗、アントワープ大会に出場し16位。 第7回アントワープ大会で、日本人初のメダル獲得(テニスで銀)
1921年(大正10)	金栗、東京府女子師範学校(現・東京学芸大学)勤務。女子体育にも力を入れる。
1922年(大正11)	金栗、仲間と樺太(当時)ー東京間を20日間で走破。
1923年(大正12)	関東大震災 。
1924年(大正13)	金栗、パリ大会に出場するが棄権。第一線から引退。 田畑、東京帝国大学卒業。朝日新聞社に入社。 第8回パリ大会開催 。
1928年(昭和3)	田畑、アムステルダム大会の金メダリストなど世界の一流選手を招き、国際水上大会を開催。 第9回アムステルダム大会で初の金メダル獲得。(陸上三段跳)
1932年(昭和7)	田畑、ロサンゼルス大会に水泳チームの総監督として参加。 第10回ロサンゼルス大会で日本水泳陣がメダル12個を獲得 。
1936年(昭和11)	田畑、ベルリン大会で日本選手団副団長を務める。 1940年の第12回東京大会開催が決定 。 第11回ベルリン大会で水泳の前畑秀子が女子初の金メダル獲得 。
1937年(昭和12)	田畑、東京オリンピック組織委員会の準備委員に就任。 日中戦争勃発 。
1938年(昭和13)	5月、嘉納治五郎死去(享年77歳) 7月、日本は東京大会開催返上を決定 。
1939年(昭和14)	第二次世界大戦勃発 。
1944年(昭和19)	第13回ロンドン大会、第二次世界大戦により中止 。
1945年(昭和20)	田畑、日本水泳連盟理事長に就任。 第二次世界大戦終結 。
1946年(昭和21)	金栗、発足した熊本県体育会(現・熊本県体育協会)の初代会長に就任。
1947年(昭和22)	金栗賞朝日マラソン(福岡国際マラソンの前身)が熊本で開催。金栗がスターター。
1948年(昭和23)	田畑、日本水泳連盟会長に就任。ロンドン大会の日程に合わせて全日本選手権開催。 戦後初の第14回ロンドン大会開催。日本は招待されず 。
1952年(昭和27)	田畑、ヘルシンキ大会で日本選手団団長を務める。 第15回ヘルシンキ大会開催 。
1956年(昭和31)	田畑、メルボルン大会で日本選手団団長を務める。 第16回メルボルン大会開催 。
1959 年(昭和34)	田畑、東京オリンピック組織委員会の事務総長に就任。 1964年のオリンピック、東京開催が決定 。
1960年(昭和35)	第17回ローマ大会開催 。
1964年(昭和39)	アジア初のオリンピック、第18回東京大会開催 。
1967年(昭和42)	金栗、ストックホルム大会55周年記念式典に招待され、55年越しのゴールを果たす。
1971年(昭和46)	田畑、日本体育協会副会長に就任。
1973年(昭和48)	田畑、日本オリンピック委員会(JOC)会長に就任。
1983年(昭和58)	11月、金栗四三死去(享年92歳)
1984年(昭和59)	8月、田畑政治死去(享年85歳)
2004年(平成16)	第80回箱根駅伝から、最優秀選手に贈られる「金栗四三杯」新設 。



いだてん～東京オリムピック噺～



後半の主人公 田畑政治 (阿部サダヲ)	前半の主人公 金栗四三 (中村勘九郎) 日本で初めて オリンピックに出た男	ドラマの語り手 古今亭志ん生 (ビートたけし) 昭和の大名人と呼ばれる "落語の神様"
「いだてん～東京オリムピック噺～」後半の主人公。日本にオリンピックを呼んだ男	idaten	美濃部孝蔵 (森山未來) 若き日の志ん生

人物 関連図

水泳日本代表チームほか					
高石勝男 (斎藤 工) 水泳男子日本代表選手	宮崎康二 (西山 潤) 水泳男子日本代表選手	小池礼三 (前田旺志郎) 水泳男子日本代表選手	松澤一鶴 (皆川猿時) 水泳日本代表監督	前畑秀子 (上白石萌歌) 水泳女子日本代表選手	小島一枝 (佐々木ありさ) 水泳女子日本代表選手
大横田勉 (林 遣都) 水泳男子日本代表選手	鶴田義行 (大東駿介) 水泳男子日本代表選手	野田一雄 (三浦貴大) 水泳日本代表助監督	河西三省 (トータス松本) NHKアナウンサー	松澤初穂 (木竜麻生) 水泳女子日本代表選手	ナオミ (織田梨沙) ロサンゼルスに住む日経2世の女性

女子体育、大日本体育協会ほか			新聞社、政界ほか	
二階堂トクヨ (寺島しのぶ) 東京女子高等師範学校助教授	人見絹枝 (菅原小春) 日本人女性初のオリンピック選手	村田富江 (黒島結菜) 四三の教え子	緒方竹虎 (リリー・フランキー) 田畑の上司、政治部長	高橋是清 (萩原健一) 大蔵大臣
増野 (柄本 佑) シマの夫	シマ (杉咲 花) 結婚後も体育への情熱を失わない	村田大作 (板尾創路) 富江の父	河野一郎 (桐谷健太) 田畑の同僚、記者	犬養 毅 (塩見三省) 内閣総理大臣
岸 晴一 (岩松了) 大日本体育協会第2代会長	武田千代三郎 (永島敏行) 大日本体育協会副会長	永田秀次郎 (伊ッセー尾形) 東京市長	酒井菊枝 (麻生久美子) 田畑政治の妻	尾高 (じろう) 田畑の同僚、記者
			マリー (薬師丸ひろ子) バー「ローズ」のママ	田畑うら (根岸季衣) 田畑政治の母

群馬県のいだてんたち

―受け継がれる長距離走の伝統―

平成の時代が終わり、新たな「令和」が始まっています。読者のみなさまはどのような思いでこの新元号を迎えられたでしょうか。

この（株）ヤマトの季刊誌で、毎年大河ドラマにちなんだ文章を書かせていただいております。今年度のNHKの大河ドラマ「いだてん」も、ストックホルム五輪の長距離に出場した金栗四三さんが主人公ですが、その活躍を、中村勘九郎さんが熱演しています。主人公の出身地は熊本県で、今後ドラマは1964年の東京五輪招致へと展開していきます。

群馬県は陸上競技、なかでもマラソンや長距離走に非常に強い歴史を持っています。最近ですと今年、順天堂大学を卒業し富士通に入社した、塩尻和也（しおじりかずや）選手、東洋大学の西山和弥（にしやまかずや）選手（ともに伊勢崎出身）が有名ですし、昨年秋季には中之条中学が中学生の全

国大会で2位、また男子都道府県対抗駅伝で群馬県代表が2位と、優れた成績を残しています。女子も高校駅伝では、健大高崎、常盤などの強豪校がありますし、ヤマダ電機の女子陸上部の実業団駅伝での活躍もめざましいものがあります。

そんななかで、少し時間をさかのぼって、私が忘れられないのは、故金井豊（かないゆたか）選手と中村孝生（なかむらたかお）選手のお二方です。故金井さんは沼田出身です。高校時代から強く、早稲田大学からエスビー食品に入社し、社会人駅伝でも活躍しました。中でも第32回全日本実業団駅伝では最終走者として、両手を広げた笑顔で優勝のテープを切った写真が印象的でした。（ちなみにこの時の第1区区間賞は後述する中村孝生選手でした）。1984年のロスアンゼルス五輪では1万メートルで7位入賞を果たします。オリンピックでの長距離入賞は1964年東京大会での円谷幸吉（つぶらやこうきち）選手以

めての五輪で胸が高まっていたのではないでしょう。しかし思いもよらぬ運命が待っていました。前年に当時のソビエト連邦がアフガニスタンに軍事侵攻したことに抗議し、アメリカ、日本などが、モスクワ大会への参加をボイコットしたのです。当時を振り返って中村さんは、「最終的には、国が決めることだから仕方ない、とあきらめた」と話してくれました。しかしやはり世界の舞台に立ちたかった無念さは、察して余りあります。

いま中村さんは、立正大学駅伝部の監督として学生を指導し、箱根駅伝出場を目指しています。指導者になってからは、「思っていることを言葉にして相手に伝えること」のむつかしさを痛感したといっています。それでも経験を重ねるなかで、「あきらめないことの大切さ」を伝えていきます。これからをめざす若者に中村さんは、「トレーニングをするところが、いざ社会に出て頑張れるから」と言います。そして《夢はあきらめてはいけない。陸上のことを考えながら、夢を口に出して言うことが大事で、頑張つてほしい》とエールを送っています。

群馬の長距離走の伝統は、途切れることなく新しい世代に引き継がれていくと思っています。

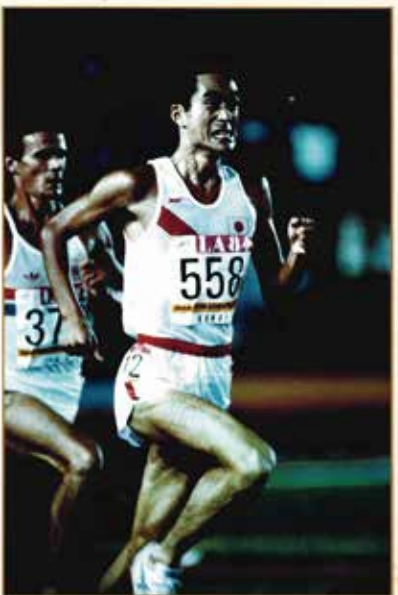


NHK前橋放送局長
井口治彦

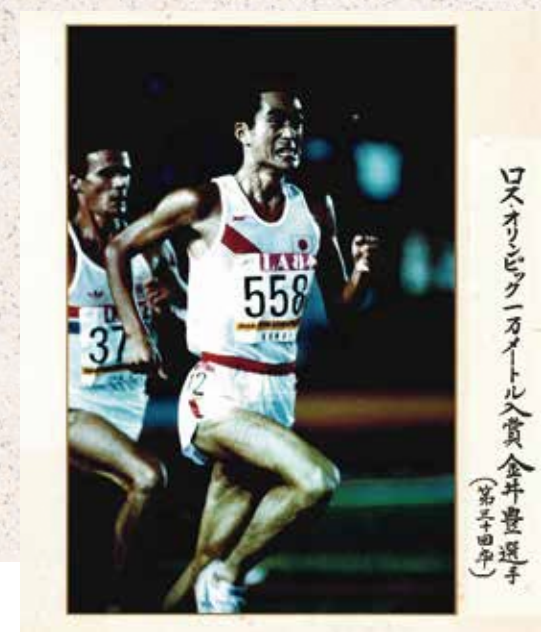
来の快挙でした。母校沼田高校の記録には、《沼田の名誉》《自宅は赤飯でお祝い》などと書かれた、上毛新聞の記事が掲載されています。またこの五輪での力走を映した記念の皿が、今も母校に飾られています。その後もさらなる活躍が期待されていました。しかし1990年8月、北海道での合宿を終え、札幌に向かう途中で、乗っていた車が交通事故に遭い他界するという無念な結果となりました。

あれから30年近くが経過し、昨年母校の後輩が自由研究で、金井選手について調べ発表するということがありました。この生徒も陸上部で「金井先輩のように力強く走りたい」という思いだったようです。金井選手の思いは、時を経て確実に後輩に受け継がれました。競技場など施設を残していくだけではなく、こうした、選手の「思い」を次の世代が受け継ぐという目には見えない伝承も、私は大きな五輪のレガシーだと思っています。

ロスアンゼルス五輪入賞金井選手（第4回中）



故 金井選手（沼田高校）



中村孝生さん

高崎出身の中村孝生さんも日本体育大学からエスビー食品で活躍しました。小学校時代に東京オリンピックの記録映画を見て、「いざれオリンピックに行きたい」と、当時の作文に書いていたそうです。小学校の校内大会でいい成績をあげ、先生から陸上部に誘われました。当時のことを中村さんは「負けず嫌いで同期はもちろん、先輩にも負けたくなくて、どうしたら陸上競技で勝てるか毎日考えていました。また自己記録や大会記録を破るため練習を積み、記録が出た時はうれしかった事を思い出します」と振り返ってくれました。

中学時代の2000メートル走の記録は今も群馬県中学生記録であり、およそ47年間破られていないことをみても、いかに中村さんが傑出した選手だったかと言えるのではないのでしょうか。

前橋工業高校2年生の時には、インターハイの5000メートルで、あの瀬古利彦（せことしひこ）さんを破り、全国優勝しました。当時の陸上競技の雑誌に掲載された中村さんの写真が、私は今も忘れられません。

その後中村さんは1980年のモスクワ五輪の5000メートルと10000メートルで日本代表となり、本番に向けて準備を整えていました。初

黒井峯遺跡

黒井峯遺跡は、昭和五十七年から平成二年にかけて、旧子持村教育委員会（現渋川市教育委員会）によって調査された遺跡です。六世紀の中頃に榛名山が噴火し、大量の軽石が黒井峯遺跡を覆いつくしました。七回にわたる発掘調査の結果、数々の大発見がありました。軽石によって古墳時代のムラがまるごとバックされていたため、これまで知ることができなかった古墳人の生活の様子が明らかになったのです。

日本のポンペイ

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
主任調査研究員・資料統括 齊田 智彦

黒井峯遺跡は、渋川市立子持中学校の南西にあり、吾妻川左岸の東西に広がる台地の上に位置しています。昭和五十七年に調査が始まり、平成五年には国指定史跡として保存されています。

今から約千五百年前の六世紀中頃、榛

名山が噴火し、大量の軽石が黒井峯遺跡に降り注ぎました。降り積もった軽石は厚いところで二メートルもありました。そのため後世の耕作などの影響を受けることがなく、古墳時代のムラが当時のまま形をとどめていたのです。発掘調査によって、それまでの考古学者の常識を打ち破るような数多くの発見がありました。目

を引くのは、堅穴建物をはじめ平地建物、高床建物、家畜小屋などさまざまな種類の建物が存在したことです。火山の噴火によって被害を受けた様子が明らかに became ことから、黒井峯遺跡は「日本のポンペイ」と呼ばれています。

まず堅穴建物の調査ですが、軽石を取り除くとその重みでつぶれてしまった屋根が姿を現しました。屋根は土をカヤで挟んでふいた構造をしていて、地面までつながっています。建物の周りには、周堤帯と呼ばれる土手がめぐらされ、深い堅穴を掘るときに出る土を盛ることで、雨水の進入を防いでいたようです。堅穴の大き



榛名山の噴火口から黒井峯遺跡までは、直線距離で約10kmありますが、大量の軽石が降り注ぎました。



軽石を丁寧に取り除くと、カヤを土で挟み込んだ屋根が姿を現しました。建物の外側には、周堤帯がめぐっているのがわかります。

ど高い建物でした。

地面を深く掘って床を作る堅穴建物に對して、地面を掘らずにそのまま床にした建物が平地建物です。黒井峯遺跡では、堅穴建物は五棟、平地建物が三十一棟調査されました。比較すると後者の方が圧

倒的に多いことがわかります。これらの平地建物の発見は、堅穴建物を中心に考えられていたこれまでの古墳時代のイメージを全く変えてしまったのです。

平地建物は、平面形が長方形と円形の二種類が確認されています。内部に柱はなく、しっかりと組まれた草壁によって屋根を支えていました。建物の内部からは土師器の杯・甑・須恵器の杯など生活で使う土器が出土しました。平地建物は、寝起きした土間や煮炊き用のカマドがある建物と、それがない建物に分けられています。

注目されたのは、平面形が長方形の建物のうち、切り妻の屋根の建物です。この建物は家畜小屋ではないかと考えられています。内部には飼われていた家畜が踏みしめたと思われるくぼみが残っていて、糞



短冊上の盛り上がりが畠、下の方形の部分が平地建物です。



湧き水を利用した水場。中央には水をせき止めるための板が残されています。



VR(ヴァーチャルリアリティ)で再現された平地建物。黒井峯遺跡では、10か所のビューポイントが設けられています。



発掘中の黒井峯遺跡。軽石の下から、古墳時代のムラが姿を現しました。

尿を流す溝も掘られていました。建物の周りには、畠も見つかっています。その中でも特徴的なのは、周囲の一部が柵で囲まれた小区画の畠で、短冊形の畵が連続しています。この畠の土壌を分析したところ、イネの痕跡が確認され、陸苗代と考えられています。

黒井峯遺跡の特異性はこれだけではありません。分厚い軽石に覆われていたことで、噴火当時の地表面がそのまま残っていたのです。地面を丁寧に調査することによって通常の発掘調査とは比べものにならない多彩な遺構が確認されました。建物

と建物・畠と水田を結ぶ道の痕跡、畠や建物を囲っていた垣や柵も調査されました。マツリのある数箇所見つかっていて、台のように土が盛り上げられた場所には、土器や白玉などが五〇点以上も供えられていました。自然の湧き水を板でせき止めた水場には、大きな甕が据えられ、その脇には水汲みに使った土器も置かれていました。このほかにも、地面が硬くしまっている屋外作業場や、樹木の生えていたあとなど古墳時代のムラの様子が現代によりみえつつあります。

今年の三月には、スマートフォン用アプ

リ、「黒井峯タイムトラベル」が完成しました。このアプリを使うと千五百年前の建物や人びとの生活の様子が目の前に広がります。古墳時代にタイムスリップすることができます。是非とも現地を訪れて、古墳人の生活に思いをはせてみてはいかがでしょうか。

参考資料：『日本の古代遺跡を巡る4 黒井峯遺跡』
史跡黒井峯遺跡 渋川市教育委員会
群馬の遺跡5（公益）群馬県埋蔵文化財調査事業団
古墳入魂 同右

李志宏 個展

開催期間… 令和元年5月8日(水)～6月28日(金) 開館時間… 午前10時～午後5時
― 人物画と風景画 ― 会場… ヤマト本社1階ギャラリーホール 入場無料 休館日… 土・日・祝日

シリーズ 群馬の芸術家 ⑤

李志宏

上海から群馬へ、人との出会いが画業を深める

元群馬県立近代美術館学芸員 染谷 滋

来日三〇年の集大成

李志宏の作品は分かりやすい具象画である。ジャンルも親しみやすい人物画と風景画に二分され、技法は油彩と水彩に大別される。人物画はデッサンの正確さや顔の表情などに難しさがあり、油彩も水彩に比べると時間のかかる技法であるため、油彩で描く人物画が上位とされてきた歴史が西洋にはあるが、見る側からは、ジャンルも技法も好き嫌いで構わない。

李の来日は三〇年前の一九八九年、平成元年の年だった。今回のヤマトギャラリーでの展覧会は、来日三〇年の集大成として、人物画の代表作を網羅した見応え十分な展示となっている。今回あまり展示されていない風景画も、同様に素晴らしい事だけは付記しておきたい。

上海に生まれ育ち日本へ

李志宏は一九五四(昭和二九)年一月二六日に中

五男に師事した。人物画を学んだことは、その後の李の画風に役立ったに違いない。やがて、群馬大学で油絵を指導する富澤秀文を紹介してもらい群馬へと向かう。

群馬大学研究生から定住へ

一九九一年、李志宏は群馬大学の研究生として前橋にやって来た。先生の富澤秀文は絵の指導だけでなく、前橋中央公民館で自らが教えていた水彩画教室を手伝わせ、やがてその指導を任せた。李は本格的に水彩画も制作する様になる。

今回の展覧会の最初に飾られている一九九三年制作の《孤児》は、中国残留日本人孤児をテーマとしたもので、戦前からの歴史ある公募団体「水会」の第五回展に出品して初入選したデビュー作品である。「水会」への出品は、群馬大学で非常勤講師をしていた山名将夫に勧められたからだ。

李はその後、日本水彩画会という団体にも出品するようになる。この会は一水会よりもさらに歴史の古い、水彩画専門の公募団体だった。

一水会も日本水彩画会も写実を基本とした平明な描写が特徴で、当然ながら李の作風と軌を一にする。「水会」の語源となったのは、中国清朝の絵画技法書『芥子園画伝』の中の一節「十日一水、五日一石」で、時間をかけた丁寧な作画態度を示している。まさに李が目指すものであった。

ところで、李が群馬への定住を決めた理由は意外なことだった。当時一〇歳だった子供が、上海の学校が休みになった二月に、李の住む富士見村(現・前橋市富士見町)にやって来て村の小学校に体験入学したのだが、言葉も通じない子供がその

国の上海市で生まれた。一九七八年に上海演劇大
学舞台美術学部を卒業、と経歴の最初に簡単に書
かれているが、そこに至るまでにどれほどの苦労
があったかは語られていない。

一九七八年は鄧小平による改革開放政策が始ま
った年で、それ以前の二〇年余りの年月は、文化大
革命の嵐が中国全土に吹き荒れていた。多感な青
年期をその「文革」の時代に生きた苦労は、我々日
本人には簡単には分からないだろう。筆者の質問
に「大変な時代でした。鄧小平に代わってやっと少
し楽になった」とポツリと語った。

大学卒業後、劇団に所属して舞台美術などを主
に行い、その後映画やテレビなどにも取り組んで
美術監督を務めたりしたが、もともと好きだった
絵を本格的に学びたい気持と、キャリアを積むこ
とを目的に日本留学を決意する。五年のつもりで
はじめは妻子を残しての来日だった。

東京で日本語学校に通う傍ら、肖像画家の斎藤

学校をすっかり気に入ってしまい、日本に移り住む
ことを選んだのだ。

李自身も群馬の風土が入っていた。何度か
転居したが、今でも赤城の裾野の富士見町にアト
リ工を構えている。李とその家族にとって、第二の
故郷である。

コレクターとの幸運な出会い

李志宏が異国の地である群馬で受け入れられ
たのは、富澤秀文が指摘する裏表のない誠実な人
柄と、抑制の効いた性格にあるのだろう。それが人
との出会いを生む。

今回の展覧会に出品された代表作の大半は、上
野村にある夢學館という美術館の所蔵品だ。夢學
館は、下仁田町のコレクター木暮弘元が一九九九年
にオープンさせた美術館で、そのコレクションの中
心を形成するのが李志宏の作品である。

接骨医を開業し、今は町議も勤める木暮は、た
またま李の風景画を見て気に入る、その後画廊の
片隅にあった前出の《孤児》に出合い、その作風に
惚れ込んでしまう。以来、一水会と日本水彩画会へ
の出品作のほとんどは木暮の所蔵品となった。画
家にとって、これほど幸運な出会いはないだろう。
木暮は最近になって、夢學館とコレクションの多く
を上野村に寄付した。李の作品は上野村に行けば
いつでも見ることが出来る。

今年、平成が令和へと改元された。平成と共に
三〇年余りの年月を刻んだ李の歩みも、新しい時
代へ入る。大勢の弟子が見守る中、私たちも李志宏
の画業の深化を期待したい。



「陽だまり」2019年 油彩 30F 2019年 第16回一水会精鋭展



「孤児」1993年 油彩 100F 1993年 第55回一水会展 夢學館・上野村現代美術館蔵

李志宏(りしこう)氏



1954年 中国上海市生まれ
1978年 上海演劇大学舞台美術学部卒業
1989年 来日
1991年～1992年 群馬大学富澤秀文絵画研究室研究生
1992年 群馬県前橋市阿久津画廊で初個展を開く
以後、毎年、前橋及び東京、横浜、鎌倉等の画廊で個展
1993年 一水会展に初出品
1999年 日本水彩画展に初出品
現在 一水会会員 日本水彩画会会員

台東区立蔵前小学校様

東京都台東区



台東区立蔵前小学校 外観（北側）



普通教室（窓側）

台東区立蔵前小学校の新校舎が完成しました。同小学校の外観は蔵前のまちを象徴する「蔵」をモチーフにしています。また、台東区と姉妹都市になっている宮城県大崎市の特産品である杉の木を利用した温かみのある内装や、自然環境に配慮した省エネ設備の導入と緑化が積極的に導入されています。省エネと緑化の方法は、地中熱利用、太陽光パネル、壁面緑化となっています。株式会社ヤマトは、空調設備工事をヤマト・浅草・松栄特定建設工事共同企業体として施工しました。



アリーナ（正面）

台東区役所庁舎1階に
嘉納治五郎先生の
銅像が展示中

台東区役所庁舎1階のオートギャラリーで、大河ドラマ「いだてん」に登場する嘉納治五郎先生の銅像が展示されています。作者は彫塑家の朝倉文夫氏です。嘉納先生は22歳の時（明治15年）に永昌寺（台東区東上野5-2-1）で柔道の道場を開き、講道館と名付けました。台東区の永昌寺が講道館発祥の地となっています。作者の朝倉文夫氏は24歳の時（明治40年）に台東区谷中にアトリエと住居を構え、現在は台東区立朝倉彫塑館として公開されています。



朝倉文夫作 嘉納治五郎像
この像は、嘉納先生が全身全霊を傾けた昭和15年（1940）の東京オリンピック招致が決定した昭和11年（1936）に制作された。

施設概要

建物名称	台東区立蔵前小学校
所在地	東京都台東区蔵前四丁目19番11号
敷地面積	3792.77㎡
構造	鉄筋コンクリート造
規模	地上5階
建築面積	2546.80㎡
延床面積	8984.98㎡
建物高さ	22.7m

お客様の声



台東区役所総務部 施設課 主任
墨田 祐一様

① 地中熱利用など、省エネ設備導入の目的

蔵前小学校の改築工事にあたり、コンセプトの一つとしてエコスクールを掲げていました。エコスクールとは「環境負荷の低減や自然との共生を考慮した学校施設の整備」のことです。環境負荷の低減に貢献するだけでなく、環境教育の教材としても活用します。これにより、学校が児童だけでなく地域の環境教育の発信拠点としても先導的な役割を果たします。主な設備として、太陽光発電設備の設置や壁面緑化等の整備を行いました。

機械設備と致しましては、当区で初の導入となった地中熱を利用した空調設備です。ガス・電気のみを使用した空調システムと違い省エネ効果に優れ、ラン



エコモニター
太陽光発電、地中熱利用を「見える化」し、児童の環境への関心を促します。

② 蔵前小学校の施設の特徴

計画コンセプトとして『心身を育む、歴史ある地域の核となる小学校』を掲げました。

「知」を育む学校、「からだ」を育む学校、「まごころ」を育む学校、「地域の核」となる学校の4本を軸にそれぞれの設計方針を固めていきました。

「知」を育む学校

- 普通教室前にオープンスペースを整備し、多様な学習展開にもフレキシブルに対応出来る。
- 廊下にもエアコンを設置するなど住環境を充実させた。
- 1階ホールに太陽光パネル・地中熱利用のパネルを掲示、環境教育の二環として利用出来る。



オープンスペース



理科室



ふれあいホール

「からだ」を育む学校

- 狭隘な敷地内で運動空間の確保をする為、屋上に校庭を整備した。
- 充実した食育環境の整備（給食室・家庭科室の連携、屋外に学級菜園）
- 壁面緑化、太陽光発電設備、地中熱利用等の環境に配慮した施設にし、児童生徒の環境への意識を育む

「まごころ」を育む学校

- 歴史ある地域への意識を生むきっかけづくりの為にメモリアルコーナーの設置
- 「地域の核」となる学校
- 災害時の避難所利用を想定（浸水対策を意識した、自家発電型空調機、備蓄倉庫の整備）
- エレベーター、多目的トイレの設置など、バリアフリーやユニバーサルデザインにも配慮した施設。